



開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	021017101		
講義名 Course title (Japanese)	比較文化論 B		
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture B		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester(s)	後期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	木曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	本キャンパス(駅東通り)		

所属名称	ナンバリングコード
	C2-CCT102LJ

担当教員 Lecturer(s)

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 范 力		経営学科

授業の内容（主題） Course description	国際社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。 授業では、前期（A）後期（B）を通じ中国、香港、台湾、フィリピン、インド、オーストラリア、アフリカ、アルゼンチン、欧米諸国などの特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で日本が目指すべき将来の姿について考えたい。
到達目標 Course objectives	各国の文化や社会についての理解を深めるとともに、異なった文化、社会に対する寛容な心を養うことができる。 これらの文化、社会の日本にとっての重要性についての理解を深めることができる。 ひるがえって、日本の文化や社会の特性についての理解を深めることができる。社会に出た際に、国際的関連性を理解して仕事に取り組める能力を養うことができる。 期末レポートの執筆を通じて、自分自身で考える力を養うことができる。
ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy	
◎：非常に強く関連する ○：強く関連する	

△：関連する
空欄：該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	○
②激変する国際社会の中にあつて、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	○
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	○
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	○

授業計画表 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	オリエンテーション	配布プリントをもう一度読み通して、本科目の内容を確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第2回	班分けを行って、各自で考えた課題を共有する。	本科目に見合った課題を各自でじっくり考える。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第3回	「自民党独裁」？それとも「共産党独裁」？	日本の「政権与党」と中国の「執政党」を比較する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第4回	ロシアとウクライナ戦争について考える。	ロシアとウクライナを再度比較する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第5回	グローバルサウスとG7を比較する。	グローバルサウスとG7を再度確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第6回	日本の大学の授業を考える。	ドイツと比較しながら、白鷗大学の授業についてディスカッションを行う。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第7回	北朝鮮はどうみられるかーアメリカの視点	アメリカの北朝鮮認識を再度確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第8回	東京五輪・北京五輪開会式比較	東京五輪と北京五輪開会式を通して日中両国の「ソフトパワー」を再確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第9回	日本はどうみられるか。	外国人から見た日本の長所と短所を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第10回	インド見聞録。	インドの台頭のポイントを押さえる。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第11回	中国企業のアフリカ進出ー「南南協力」の視点から。	「南南協力」を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第12回	「日本人拉致問題」と「孟晩舟事件」を比較する。	日本と中国の抱える問題点を整理し、解決策を再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第13回	アルゼンチン見聞録。 「アルゼンチンがうまくいかなかったのはなぜか」について考える。	「先進国」から「途上国」に転落した国を再度確認する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第14回	東洋思想と西洋思想	世界のために、東洋の思想をいかに生かせればよいかを再考する。予習や復習をそれぞれ2時間ずつかけて行う。
第15回	まとめ、目的達成かをチェックする。	シラバスに書かれた目標をどこまで達成できたかを振り返る。レポート作成は8時間以上かけて行う。

授業計画コメント Course outline

各国の異同を徹底的に調査、研究しながら、それぞれの文化を比較していく。

授業の進め方 Session plan

講義、プレゼン、グループディスカッション、映画鑑賞、ディベート、その他

アクティブラーニング Active learning

履修生によるグループ学習はこの授業の一つの特徴である。そのため、能動的学習は常に求められる。

授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours

プレゼンがあるため、その準備（予習）や反省（復習）を心にかける。

教科書等 Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author (s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions	なし										
参考図書 Reference book (s)	教室にて指示する。										
成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria											
	<table><tr><td></td><td>定期試験 Tests</td><td>授業内小試験 In-class quizzes</td><td>レポート・課題 Reports/Assignments</td><td>受講態度 Class Attitude</td></tr><tr><td>評価比率% Evaluation ratio</td><td>0%</td><td>0%</td><td>70%</td><td>30%</td></tr></table>		定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude	評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	70%	30%
	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude							
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	70%	30%							
成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	レポートや授業への貢献度などによる総合的に評価する。受講態度は授業時の報告やグループメンバー同士のディスカッション等を含む。										
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	なし										



✕ ウィンドウを閉じる